

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		屋良 さとみ	所 属		医学部 医学教育企画室
			職 名		准教授
領域	業務ウエイト比(予定)	平成29年度 年度目標設定		業務ウエイト比(実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.60	①医学教育企画室の専任教員として、学部学生の”医学教育”に関する様々な案件の総とりまとめ的な役割(オーガナイズ)を担う。[M1外来付添実習・医学概論B、M2体験学習、M3離島地域病院実習、M4TBL・CBT・OSCE、M5 総合試験 I、M6 総合試験 II/III・Post CC OSCE] ②医師国家試験の合格率アップにさらに取り組んでいく。 ③海外大学との医学生の派遣・受入れに関する業務を事務員と共に担当。 ④課外学習支援として、「地域枠一年次学生の県外地域医療実習」、「地域医療を学ぶための学生セミナー」、「国試対策補講」等を担当する。 ⑤呼吸器内科医として学部学生の系統講義の一部を担当する。 ⑥M2前期の「医学外国語講義」を担当する。 ⑦M4 TBL の講義の初回の講義を担当する。 ⑧M6学生9人の”指導教員”として6年間生活等の指導・教育にあたる。 ⑨学部学生がより良く有意義な学生生活を(学業・生活面等)るよう指導・相談、意見聴取を行う。(良好なカリキュラム改革に向けても含む。) ⑩学部学生の”在学中、および卒後の進路”また卒後より良い勤務状況を得られるように様々な内容についての指導・相談、意見聴取を行い対処していく。		0.60	毎年、新しい懸案事項が新出してくるも、左記の目標はほぼ達成できたものと思われる。但し、医師国家試験の合格率が総合試験導入直後よりは低下しているため、安定した合格率を得られるよう、工夫し考慮・検討・実施していく。また、全医学科生が、良い有意義な学生生活を送り、立派な医師となるよう更なる手助けをしていきたい。
研究	0.05	・”医学教育”に関する研究を施行していく。 ・呼吸器びまん性肺疾患”に関する研究を施行していく。		0.05	・”医学教育”に関する研究のためのデータを蓄積している。 ・呼吸器内科の診療に関わり、”呼吸器びまん性肺疾患”に関する研究のためのデータ蓄積に関与した。
社会貢献	0.05	・より良い医療人を多く育成・輩出することで、社会貢献していく。 ・内科、呼吸器内科医として、多くの患者さんの診療をより良く行うことで、社会貢献する。 ・”呼吸器びまん性肺疾患”の分野で、学会や研究会の座長依頼が増えており、丁寧にこなしていく。 ・昨年同様、”呼吸器内科”分野の論文査読依頼があった場合には、丁寧にこなしていく。		0.05	5年前からの総合試験の導入によって、結果的に琉球大学医学科の「医師国家試験合格率が以前より上昇」し、また医学科6年間のカリキュラムの改良もあり、多くの良い医師を輩出でき、社会貢献につながっていると思われる。
管理運営	0.15	・H29年12月に受ける「分野別認証」に向け、委員会委員として、計画、立案、文書作成、本番の取組に向けて、精力的に取り組んでいく。 ・医学教育企画室自体を管理運営していく。 ・国(文科省、厚労省等)からの方針を実現していけるよう、学務・教務係の方々と協力して対処していく。 ・”医学教育”に関わる多部署とも連携し、FDその他の企画を立案・実施していく。		0.15	不十分な点もあるが、かなり達成はできたと思われる。H29年12/11の週に「医学教育分野別認証評価」を受審し、それに向け医学科全体で取り組み、自身も委員会委員として、計画、立案、文書作成、本番の取組に向けて、精力的に取り組んだ。結果はまだ不明だが、ほぼ一定の評価は得られたものと思われる。
診療	0.15	・内科医・呼吸器内科医(特に専門は”びまん性肺疾患”)として、患者さんの外来・入院診療に携わっていく。		0.15	目標通り、十分遂行出来たと思われる。
計	1.00			1.00	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	名嘉地 めぐみ		所 属	医学部 医学教育企画室	
職 名			講 師		
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.50	①国際基準に対応した医学教育カリキュラム改革のために、本学部のカリキュラム作成に関わる。②診療参加型臨床実習の実質化を図るために、本学部臨床実習担当者としてオーガナイズする(臨床実習履修簿の作成を取りまとめる。学内及び学外病院の臨床実習担当者と定期的に連絡会を実施する。臨床実習に関して学生や教員から意見の聴取及びアンケート調査を行う。臨床実習中の学生及び留年した学生の進路相談や学業サポートを行う。県立中部病院の臨床実習を支援するために、定期的に訪問し、学生指導を行う。)③医学部1年次対象のシミュレーション演習の担当を行う。学生の意見を聴取しフィードバックしていく。④医学部5年次対象の倫理総合討論の運営を担当する。	0.45	①本学部の特に臨床実習に関するカリキュラム作成に関わり、実習目標や教育内容を設定した。モデル・コアカリキュラムの内容を反映するカリキュラムを作成した。②臨床実習連絡会(学内・学外)を実施した。担当教員及び指導医の意見を聴取したり、学生には臨床実習アンケートで意見を聴いたりして、次年度の臨床実習改善に反映させた。医学科5年次、6年次の総合試験不合格者及び留年者の学習状況の聞き取りと学習計画の指導を行った。臨床実習支援のため県立中部病院へ巡回指導を行い、指導医の負担軽減に寄与した。③④シミュレーション教育や倫理総合討論を通して、学生は安全な環境で臨床に必要なタスクを学び、また多職種連携を含めた安全な医療を目指す考え方、医療の中にある倫理的問題に対して解決する方策を身に付けるよう指導・運営した。	
研究	0.10	①本学の診療参加型臨床実習の取り組みについて、医学教育学会で発表する。②アクティブラーニング(シミュレーション演習等)の実施により、学生アンケートなどのデータ蓄積し、次年度以降の発表を検討する。	0.10	①本学部の臨床実習の取組について、日本医学教育学会でポスター発表を行い、他大学と意見交換を行った。②シミュレーション演習、臨床実習の運営を実施し、学生アンケートを収集しデータを蓄積した。今後、学生の臨床実習診療科選択と総合試験成績との相関等を分析し学会発表を検討する。	
社会 貢献	0.10	①地域医療に貢献する医師を育成するために、6年次医学科生の離島クラークシップの運営と実施を行う。②産業医として、担当事業所の衛生委員会などに参加し、労働者の健康管理の支援を行う。	0.10	①地域医療に貢献する医療人を育成するために、6年次医学科生(14名)の離島クラークシップを計画・実施した。事前・事後学習を通して、学生の地域医療へのマインドの育成を図った。②産業医として、学外団体の安全衛生委員会に参加した。休職中の職員と面談し、復帰支援を行った。	
管理 運営	0.25	①琉球大学医学部が国際基準に対応した分野別認証評価を受けるために、医学教育分野別評価リーダーミーティングに参加し、自己点検評価作業に関わる。②医学教育企画室員、医学科教務委員会委員として、カリキュラム改革(主に臨床実習等)に関わる。③病院情報管理システム運用委員会に参加し、臨床実習学生の電子カルテの運用について意見する。	0.25	①②医学教育改革のために、医学教育分野別評価検討委員会、教務委員会、カリキュラム委員会と医学教育企画室会議へ参加した。今年度、本学部が国際認証に対応した分野別認証評価を受審するにあたり、本学部のコンピテンシー作成と自己点検評価作業に関与した。③病院情報管理システム運用委員会にも参加した。電子カルテ使用にあたり、学生(3年生・4年生)の情報リテラシー講習会も実施した。	
診療	0.05	①多忙な学内医師の診療業務を支援する。②腎臓専門医として、学外クリニック及び透析施設で診療活動を行う。	0.10	学内の医師が多忙な場合、代診業務を行い、診療をサポートした。腎臓専門医として、地域病院において腎不全患者の診断、治療、教育を行い、地域医療に従事した。	
計	1.00		1.00		

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。